

# パラスポーツ体験会

青森とパラスポーツのこれから

取材先  
NPO 法人スポーツネット弘前

## 弘前スポーツ祭

パラスポーツを通して笑顔が生まれる

パラスポーツは、障がいのある人が行うスポーツのことで、競技人口が野球やサッカーなどメジャースポーツと比べて少なく、認知度が低いと思われる。しかし、健常者の人たちがパラスポーツを体験することで、その楽しさを知ることができ、健常者と障がい者がスポーツを通して共存するきっかけをつくれるのがパラスポーツにおける一つの役割だと考える。そんな

パラスポーツを実際に体験することを目的として、10月9日

日に弘前市民体育館でパラスポーツ体験会が行われた。この

イベントでは、車椅子バスケやボッチャ、ゴルフボール、フライングディスクの4

## 実際に体験してみて…

実際に私たちもパラスポーツを体験した。その一つであるゴールボールは、サッカーのPKのようなかたちで、一人が鈴の入ったボールを転がしもう一人が目隠しをしてそのボールをとめるのだが、止める側は音で方向などを判断しなければならないのが難しかった。この体験により、パラスポーツへの関心が高まつた。



## 編集後記

私たちも実際にパラスポーツを体験してみて、身体の不自由な人だけでなく、健常者でも楽しめるスポーツが多く、とても貴重な経験となつた。

実際に私たちもパラスポーツを体験した。初めて体験する競技を楽しんでいた。突き詰めていくと奥が深いパラスポーツだが、基本的なルールはシンプルであり、ルールを知らない小さな子どもたちが純粋に楽しんでいる様子が何よりも印象に残った。

でもらい、関わる人を増やしたい」と話す。弘前市では、フライングディスクと、ボッチャが開催される予定であるが、現時点では、青森県のチームが少なく、まだまだたくさんの人への普及が必要である。そのためにはこのような活動を通して認知してもらい、青森県は、パラスポーツが盛んだと感じてもらいたい盛り上げていきたいと話す。



本体験会を主催した金崎裕貴さんは、2026年に、約49年ぶりに開催される青森国体に向けて、「パラスポーツをもっと

たくさん的人に知つてほしいと感じた。

